

## 日本地球掘削科学コンソーシアム 2021年度定例総会

開催日時:2021年5月20日(木)14:00~17:00

開催方法:オンライン開催(Zoom)

### 議事次第(案)

1. 会議成立の確認
2. ウェブ会議の進め方説明
3. 議長選任
4. 議事次第(案)確認・承認
5. 2020年度活動報告
  - (1) 理事会活動報告(会長) .....資料1
  - (2) IODP部会活動報告(IODP部会長) .....資料2
  - (3) ICDP部会活動報告(ICDP部会長) .....資料3
6. 2020年度決算報告・監査報告(財務担当理事・監事) .....資料4
7. 2021年度執行体制報告 .....資料5
8. 2021年度活動方針案審議
  - (1) J-DESC活動方針案(会長) .....資料6
  - (2) IODP部会活動方針案(IODP部会長) .....資料7
  - (3) ICDP部会活動方針案(ICDP部会長) .....資料8
9. 2021年度予算案審議 .....資料9
10. その他
  - (1) J-DESC会員機関現状報告 .....資料10
  - (2) その他
11. 議長解任
12. 会長挨拶

### 配付資料

- |     |                   |      |                         |
|-----|-------------------|------|-------------------------|
| 資料1 | 理事会 2020年度活動報告    | 資料6  | J-DESC 2021年度活動方針案      |
| 資料2 | IODP部会 2020年度活動報告 | 資料7  | IODP部会 2021年度活動方針案      |
| 資料3 | ICDP部会 2020年度活動報告 | 資料8  | ICDP部会 2021年度活動方針案      |
| 資料4 | 2020年度収支決算書・監査報告  | 資料9  | 2021年度予算案               |
| 資料5 | 2021年度執行体制        | 資料10 | J-DESC 会員リスト(2021年5月時点) |

2021 年 5 月 20 日

## 日本地球掘削科学コンソーシアム

## 理事会 2020 年度活動報告

理事会

2020 年度の理事会の活動概要について、下記の通りご報告いたします。

理事会の活動の推進	
<p>(活動概要) 定期的に理事会を開催し、組織運営、対外活動、研究推進、広報教育などの重要事項を審議・決定した。IODP・ICDP 両部会と連携して決定事項を効果的に遂行した。</p>	
理事会の開催状況	
第 1 回：2020 年 6 月 5 日	第 7 回：2021 年 1 月 25 日
第 2 回：2020 年 7 月 8 日	第 8 回：2021 年 3 月 5 日
第 3 回：2020 年 8 月 7 日	第 9 回：2021 年 4 月 16 日
第 4 回：2020 年 9 月 8 日	第 10 回：2021 年 5 月 10 日
第 5 回：2020 年 10 月 23 日	
第 6 回：2020 年 12 月 2 日	
備考：Web 会議で約 2 時間開催	
総務	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018 年度の改組で発足した新体制を引き継ぎ、安定的な組織運営、理事会と両部会執行委員会との効率的な分担を行うとともに、選挙規約の整理や見直しにより組織の改革・最適化を進めた。</li> <li>・遠隔ライブイベント等、会員へのサービスや組織の活性化に資する効果的な活動を維持・推進するとともに、広く会員の輪を広げるための新しい仕組みについて検討を行った。</li> <li>・ウェブサイト、メールニュース等を通じて会員への各種情報提供を行った。</li> </ul> <p>&lt;今後の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員の輪を広げるための制度設計、及び実現へ向けた取組</li> <li>・将来の掘削科学を担う人材及び一般への認知度拡大を含めた組織活性化</li> </ul>	

**科学戦略**

- ・ 2023年以降の深海掘削科学の指針を示した 2050 Science Framework (SF) 策定に執筆・レビューを含めて貢献し、2020年9月23-24日に開催された IODP Forum で、この SF を確定させた。
- ・ 2050 Science Framework の策定を受け、日本版 2050 Science Framework を作成し、また、IODP や ICDP の将来計画において、世界をリードすべく日本の方針提言書を作成し、健全で活力ある科学コミュニティを維持・拡大した。
- ・ 既存のコア・データを活用する仕組み (Virtual Expedition) の一環として、高知コアセンターを活用するプランを IODP Forum に提出する準備を行った。
- ・ 日本発の新規掘削提案の提出促進と新たな科学アイデアの募集・育成を目的としたワークショップをオンラインで開催した (ICDP 掘削提案促進ワークショップ、11月5-6日開催)。
- ・ 日本地球惑星科学連合 2020 年大会で「地球掘削科学」セッションを開催し、2021 年大会のセッション提案を行った。

**<今後の課題>**

- ・ 国内外の情勢変化を分析し、積極的・効果的なコミュニティへの情報展開を図る。

**財務**

- ・ 2020 年度予算を執行し、決算報告を行った。J-DESC の財政及び活動方針を踏まえ、適切な予算案策定を行った。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策により様々な活動が限られている中、効果的な予算運用を行った。
- ・ 前年度から引き続き Web 会議の活用により大幅な経費節減を行った。

**<今後の課題>**

- ・ 将来的な収入維持・増加へ向けた対応策の検討

## 外務

- ・ COVID-19 禍の中、IODP 及び ICDP 関連の国際会議、ワークショップ等に J-DESC 役員や国内研究者のオンライン参加を促し、積極的な対外活動を行うとともに、収集した各種情報を研究コミュニティへ展開した。
- ・ IODP Proposal Guidelines の改訂に貢献した。

## &lt;今後の課題&gt;

- ・ COVID-19 対策のために国際会議の対面会議が制限される中、国内外の情勢変化を分析し、積極的・効果的なコミュニティへの情報展開を図る

## 広報・教育

- ・ 各種普及・広報・教育活動を継続展開するとともに、遠隔ライブイベント等の新規活動を創出・企画した。
- ・ ICDP 掘削提案促進ワークショップを開催し若手育成・研究コミュニティの底辺拡大を行った。
- ・ COVID-19 を契機とした教育のデジタル化にマッチした情報発信を行うため、YouTube J-DESC チャンネルを開設し、授業方式の遠隔ライブイベントを行った。
- ・ 日本地球惑星科学連合の大会にブース出展し、掘削科学の普及活動を行った。

## &lt;今後の課題&gt;

- ・ IODP・ICDP 両部会との連携を深め、効果的な役割分担を行う。
- ・ より積極的に新たな広報活動を展開する。

2021 年 5 月 20 日

## 日本地球掘削科学コンソーシアム

## IODP 部会 2020 年度活動報告

IODP 部会執行委員会

2020 年度の IODP 部会の活動概要について、下記の通りご報告いたします。

部会活動の推進・総務関連
IODP 部会執行委員会の活動
(活動概要) IODP 部会規約に従い、必要に応じて執行委員会を適宜開催し、重要事項の検討を行い、理事会に報告した。
執行委員会の開催状況
第 1 回：2020 年 7 月 3 日
第 2 回：2020 年 9 月 2 日
第 3 回：2020 年 11 月 12 日
第 4 回：2021 年 1 月 21 日
第 5 回：2021 年 3 月 11 日
専門部会等
委員会名：掘削航海専門部会
・IODP 掘削航海の J-DESC 乗船応募者の評価をメールベースで行った。2020 年度の航海および応募者・乗船者一覧は別表 1 参照
委員会名：科学推進専門部会
・日本発の IODP 掘削提案 (Proposal) を支援する取り組みとして、従来、IODP へ提出された後の掘削提案に助言を行っていた j-watch 体制を見直し、提出前の掘削提案に SEP 経験者等をレビュアーとして割り振り助言・強化を行う「新 j-watch 体制」の運用を開始した (本年度実績 3 件)。 ・IODP Science Evaluation Panel の候補者リストを更新し、SEP 委員選定を支援した。 ・SCORE 掘削提案 5 件の評価を行った。
委員会名：マントル掘削ワーキンググループ
マントル掘削の推進に携わってきた研究者と JAMSTEC 研究プラットフォーム運用開発部門マントル掘削プロモーション室のメンバーで構成されるマントル掘削 WG を設置し、マントル掘削の推進に資する諸活動 (研究者の分野融合と

連携促進、普及広報など)を開始した。
科学戦略関連
掘削科学の活性化に資する活動
<ul style="list-style-type: none"> <li>・掘削提案書作成支援・アイデア創出の一環として開催された ICDP 掘削提案促進ワークショップにおいて、理事会および ICDP 部会と協力した。</li> <li>・SCORE 教育乗船枠制度を策定した。</li> <li>・専門部会を活用し、提出前の新規掘削提案の支援（新 j-watch 体制等）により、日本発の掘削提案の実現を強力に進めた。</li> <li>・J-DESC 会員をはじめとする国内研究者コミュニティに対する SCORE の周知活動を強化し、SCORE への掘削提案を奨励した。</li> <li>・IODP Science Framework の日本版概要を作成した。</li> </ul>
集会・シンポジウム後援・開催等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICDP 掘削提案促進ワークショップ開催（前述）</li> <li>・日本地球惑星科学連合 2020 年大会で「地球掘削科学」セッションを開催</li> <li>・日本地球惑星科学連合 2021 年大会へのセッション提案</li> </ul>
財務関連
年度予算の策定・運用
IODP 部会の活動予定を踏まえ、適切な年度予算を策定し、限られた予算の効果的な運用を行った。
外務関連
IODP に関わる対外的な活動および支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>・SEP 等のパネル委員の公募、推薦を行った。</li> <li>・SEP (Science Evaluation Panel)、JOIDES Resolution Facility Board、ECORD Facility Board、IODP Forum の 4 種類の IODP 国際会議に委員・オブザーバーとして出席した。</li> </ul> <p>会議開催実績は別表 2 を参照</p>
広報・教育関連
新規活動の創出・企画の検討
<ul style="list-style-type: none"> <li>・SCORE 教育乗船枠制度を策定した。</li> <li>・高知コアセンターでのレガシーコアサンプリングのための学生旅費支援制度を提案した。</li> </ul>

学会等における広報活動
理事会及び ICDP 部会と協力し、日本地球惑星科学連合 2020 年大会にてオンライン展示に出展した。
若手育成・研究コミュニティの底辺拡大
・掘削提案書作成支援・アイデア創出の一環として、理事会および ICDP 部会と協力し、ICDP 掘削提案促進ワークショップを開催した。
出版物等
・ J-DESC Newsletter vol. 13 (日本語) 電子版発行 ・ J-DESC Newsletter vol. 14 (日本語) 電子版の発行に向けた原稿準備
その他普及活動・アウトリーチ
・メールニュース「J-DESC Update」による各種最新情報の提供 ・ J-DESC ホームページ及び Facebook ページの効果的活用 ・ YouTube J-DESC Channel 開設への協力 ・関係機関による IODP 航海やその研究成果に関するプレスリリースへの協力

## 2020 年度 IODP 掘削航海対応実績

## 2020 年度に乗船応募者評価・推薦を行った IODP 掘削航海

\*2020年度対応を太字で記載

#	航海名	プロポーザル	実施期間 (予定)	出港/入港	乗船者/ 応募者	乗船決定者	備考
<b>JOIDES Resolution (JRSO)</b>							
392	Agulhas Plateau Cretaceous Climate	834-Full2 & 834-Add	2022/2/5-4/7	Cape Town to Cape Town, South Africa	2名/5名 (追加募集) 1名/1名	・市山 祐司 (千葉大学) ・加藤 知恵 (九州大学)	乗船辞退に伴 う追加募集
396	Mid-Norwegian Continental Margin Magmatism	944-Full2/944- Add2	2021/8/6-10/6	Reykjavik, Iceland to Kristiansand, Norway	2名/2名 (追加募集) 0名/1名	・中岡 礼奈 (神戸大学) ・SAYANTANI CHATTERJEE (新潟大学)	乗船者決定済 分野限定で追 加募集

## Mission Specific Platform (ESO)

386	Japan Trench Paleoseismology	835-Full & 866-Full	Offshore: 2021/4/13-6/1 Onshore: 2021/10-11月	Departure: Yokosuka; Mid cruise port Call, Hachinohe; Return to Yokosuka	Co-chief 1名 8名/9名 (追加募集) ①1名/1名 ②1名/1名	・池原 研 (Co-chief/AIST) ・Kanhshi Hsiung (JAMSTEC) * 石澤 堯史 (北海道大学) ・金松 敏也 (JAMSTEC) * 喜岡 新 (九州大学) * 長橋 良隆 (福島大学) * 板木 拓也 (AIST) * Zhirong Cai (京都大学) ・實野 佳奈 (早稲田大学) * Onshore Science Party Only	乗船辞退に伴 う、分野限定の 追加募集 2度
-----	------------------------------	------------------------	---	---	--	--	------------------------------



## IODP関連国際会議 2020年度開催実績及び出席者

会議名称	開催日	会場	出席委員
EPSP (Environmental Protection & Safety Panel)	2021年2月23日-24日	オンライン開催	朴 進午 (東京大学)
CIB (Chikyu IODP Board)	延期		
SEP (Science Evaluation Panel)	2020年6月15-18日	オンライン開催	黒田 潤一郎 (パネル・東京大学)
			戸丸 仁 (パネル・千葉大学)
			浜田 盛久 (パネル・JAMSTEC)
			杉岡 裕子 (パネル・神戸大学)
			川村 喜一郎 (パネル・山口大学)
			橋本 善孝 (パネル・高知大学)
			松崎 賢史 (パネル・東京大学)
	2021年1月11-14日	オンライン開催	浜田 盛久 (パネル・JAMSTEC)
			杉岡 裕子 (パネル・神戸大学)
			橋本 善孝 (パネル・高知大学)
			松崎 賢史 (パネル・東京大学)
			山口 耕生 (パネル・東邦大学)
			山本 由弦 (パネル・神戸大学)
			白石 和也 (パネル・JAMSTEC)
JOIDES Resolution Facility Board	2020年8月17-19日	オンライン開催	多田 隆治 (JRFB委員・千葉工業大学)
IODP Forum Meeting & PMO Meeting	2020年9月22-24日	オンライン開催	川幡 穂高 (J-DESC会長・東京大学)
			益田 晴恵 (IODP部会長・大阪市立大学)
ECORD Facility board	2020年10月28日	オンライン開催	山田 泰広 (EFB委員・JAMSTEC)
	2020年12月10日		

2021 年 5 月 20 日

## 日本地球掘削科学コンソーシアム

## ICDP 部会 2020 年度活動報告

ICDP 部会執行委員会

2020 年度の ICDP 部会の活動概要について、下記の通りご報告いたします。

執行委員会の開催 ・ 総務関連
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICDP 部会執行委員会を以下の通り開催した。 第 1 回：2020 年 6 月 25 日    第 2 回：2020 年 12 月 9 日    第 3 回：2021 年 4 月 9 日</li> <li>・ICDP 部会規約に従い、必要に応じて執行委員会を適宜開催し、重要事項を検討・実施し、理事会に報告した。</li> </ul>
科学戦略関連
掘削科学の活性化に資する活動
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本発の ICDP プロジェクトの提案促進に必要な課題を整理した。</li> <li>・ICDP 掘削提案促進ワークショップ「新たな掘削科学の展望-陸上から海洋まで-」をオンラインで開催し、若手育成・研究コミュニティの拡大に努めた。</li> <li>・WS 後に、新規提案を目指す発表者に提案書作成のために支援となる情報を提供した。</li> <li>・新たな掘削提案について、その内容と必要としている支援について聞き取りを行った。</li> <li>・日本からの研究者の ICDP 関連成果の取りまとめを継続した。</li> </ul>
集会・シンポジウム後援・開催等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・掘削科学 2050 サイエンスフレームワーク J-DESC 版の作成に協力した。</li> <li>・日本地球惑星科学連合 2020 年大会にて「地球掘削科学」セッションを開催し、2021 年大会のセッション提案を行った。</li> <li>・高知コアセンター将来構想ワークショップに参加し、コアレポジトリーに ICDP 部会から期待することを講演した。</li> </ul>

財務関連
年度予算の策定・運用
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICDP 部会の活動予定を踏まえ、適切な年度予算の策定と執行を行った。</li> <li>・ Web 会議の活用により大幅な経費節減を行った。</li> </ul>
外務関連
ICDP に関わる対外的な活動および支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICDP の Assembly of Governors (AOG), Executive Committee (EC), Science Evaluation Group (SAG)の各会議へ出席し、ICDP の国際情勢について情報共有を行うとともに、情報を分析して J-DESC の活動に反映した。</li> <li>・ SAG 等の ICDP 国際委員候補者の検討を行い、候補者リストを更新した。</li> </ul>
広報・教育関連
新規活動の創出・企画の検討
<p>会員機関の相互連携による研究教育資源の有効活用（単位認定制度）について意見交換を行った。</p>
学会等における広報活動
<p>理事会及び IODP 部会と協力し、日本地球惑星科学連合 2020 年大会にてオンラインに出展した。</p>
若手育成・研究コミュニティの底辺拡大
<p>COVID-19 の影響により、コアスクールは開催できなかった。</p>
出版物等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ J-DESC Newsletter vol. 13（日本語）電子版発行（2020 年 8 月）</li> <li>・ J-DESC Newsletter vol. 14（日本語）電子版の発行に向けた原稿準備</li> </ul>
その他普及活動・アウトリーチ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ メールニュース「J-DESC Update」による各種最新情報の提供</li> <li>・ J-DESC ホームページ及び Facebook ページの効果的活用</li> </ul>

# 収支計算書

2020年 4月 1日から2021年 3月31日まで

日本地球掘削科学コンソーシアム

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	備 考
<b>【収入の部】</b>				
年会費	3,961,000	<b>4,158,000</b>	-197,000	
正会員	3,040,000	<b>3,240,000</b>	-200,000	
正会員A	2,200,000	<b>2,400,000</b>	-200,000	会費納入率 100%
正会員B	840,000	<b>840,000</b>	0	会費納入率 100%
個人会員	21,000	<b>18,000</b>	3,000	会費納入率 80%
賛助会員	900,000	<b>900,000</b>	0	会費納入率 100%
雑収入	0	<b>261</b>	-261	
収入計	3,961,000	<b>4,158,261</b>	-197,261	
<b>【支出の部】</b>				
共通経費	4,083,132	<b>1,715,964</b>	2,367,168	
会員提案型活動経費	300,000	<b>0</b>	300,000	
広報活動費	378,132	<b>163,382</b>	214,750	
コアスクール開催費	1,355,000	<b>0</b>	1,355,000	
会議開催費	60,000	<b>0</b>	60,000	
通信費	30,000	<b>10,236</b>	19,764	
雑費	70,000	<b>41,013</b>	28,987	残高証明、振込手数料等
謝金	60,000	<b>0</b>	60,000	
事務局業務委託費	525,000	<b>488,347</b>	36,653	
事務局会計業務費	5,000	<b>0</b>	5,000	
掘削科学計画・提案支援費	300,000	<b>53,856</b>	246,144	
Science framework対応・特別出版費	1,000,000	<b>959,130</b>	40,870	
理事会活動経費	510,000	<b>0</b>	510,000	
理事会活動経費	500,000	<b>0</b>	500,000	
雑費	10,000	<b>0</b>	10,000	
I O D P 部会経費	378,200	<b>0</b>	378,200	
執行委員会活動経費	358,200	<b>0</b>	358,200	
雑費	20,000	<b>0</b>	20,000	
I C D P 部会経費	277,000	<b>0</b>	277,000	
執行委員会活動経費	270,000	<b>0</b>	270,000	
雑費	7,000	<b>0</b>	7,000	
支出計	5,248,332	<b>1,715,964</b>	3,532,368	
当期収支差額	-1,287,332	<b>2,442,297</b>	-3,729,629	
前期繰越収支差額	9,887,940	<b>9,887,940</b>	0	
次期繰越収支差額	8,600,608	<b>12,330,237</b>	-3,729,629	

# 財産目録

2021年 3月31日現在

日本地球掘削科学コンソーシアム

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	金額
(流動資産)	預金	ゆうちょ銀行振替口座	3,288,947
		三井住友/大塚	9,041,478
流動資産合計			12,330,425
資産合計			12,330,425
(流動負債)	未払金		188
流動負債合計			188
負債合計			188
正味財産			12,330,237

# 貸借対照表

2021年 3月31日現在

日本地球掘削科学コンソーシアム

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	12,330,425	9,808,476	2,521,949
ゆうちょ銀行振替口座	3,288,947	4,561,930	-1,272,983
三菱UFJ/大塚	0	5,246,546	-5,246,546
三井住友/大塚	9,041,478	0	9,041,478
未収金	0	80,588	-80,588
流動資産合計	12,330,425	9,889,064	2,441,361
資産合計	12,330,425	9,889,064	2,441,361
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	188	1,124	-936
流動負債合計	188	1,124	-936
負債合計	188	1,124	-936
III 正味財産の部			
正味財産合計	12,330,237	9,887,940	2,442,297
負債及び正味財産合計	12,330,425	9,889,064	2,441,361

日本地球掘削科学コンソーシアムの2020年度決算書類を監査した結果  
その処理は適正であったことをここに報告します。

2021/04/13

監事

監事

# 貸借対照表

2021年 3月31日現在

日本地球掘削科学コンソーシアム

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	12,330,425	9,808,476	2,521,949
ゆうちょ銀行振替口座	3,288,947	4,561,930	-1,272,983
三菱UFJ/大塚	0	5,246,546	-5,246,546
三井住友/大塚	9,041,478	0	9,041,478
未収金	0	80,588	-80,588
流動資産合計	12,330,425	9,889,064	2,441,361
資産合計	12,330,425	9,889,064	2,441,361
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	188	1,124	-936
流動負債合計	188	1,124	-936
負債合計	188	1,124	-936
III 正味財産の部			
正味財産合計	12,330,237	9,887,940	2,442,297
負債及び正味財産合計	12,330,425	9,889,064	2,441,361

日本地球掘削科学コンソーシアムの2020年度決算書類を監査した結果  
その処理は適正であったことをここに報告します。

2021年4月13日

監事 小村健太郎

監事

## 日本地球掘削科学コンソーシアム 役員

2020 年度	2021 年度
<p>会長： 川幡 穂高 (東京大学大気海洋研究所)</p> <p>IODP 部会長： 益田 晴恵 (大阪市立大学大学院理学研究科生物地球系専攻)</p> <p>ICDP 部会長： 藤原 治 (産業技術総合研究所地質調査総合センター)</p> <p>理事： 氏家 恒太郎 (筑波大学生命環境系地球進化科学専攻) 木下 正高 (東京大学地震研究所) 清川 昌一 (九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門) 黒田 潤一郎 (東京大学大気海洋研究所) 黒柳 あずみ (東北大学学術資源研究公開センター) 坂口 有人 (山口大学理学部地球圏システム科学科) 島 伸和 (神戸大学) 林 為人 (京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻地球資源学講座) 道林 克禎 (名古屋大学地球環境科学専攻関連講座) 森下 知晃 (金沢大学理工研究域地球社会基盤学系) 諸野 祐樹 (海洋研究開発機構 超先鋭研究開発部門)</p> <p>監事： 海野 進 (金沢大学理工研究域地球社会基盤学系) 小村 健太郎 (防災科学技術研究所地震津波防災研究部門)</p>	<p>会長： 川幡 穂高 (東京大学大気海洋研究所)</p> <p>IODP 部会長： 益田 晴恵 (大阪市立大学大学院理学研究科生物地球系専攻)</p> <p>ICDP 部会長： 藤原 治 (産業技術総合研究所地質調査総合センター)</p> <p>理事： 氏家 恒太郎 (筑波大学生命環境系地球進化科学専攻) 木下 正高 (東京大学地震研究所) 清川 昌一 (九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門) 黒田 潤一郎 (東京大学大気海洋研究所) 黒柳 あずみ (東北大学学術資源研究公開センター) 坂口 有人 (山口大学理学部地球圏システム科学科) 島 伸和 (神戸大学) 林 為人 (京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻地球資源学講座) 道林 克禎 (名古屋大学地球環境科学専攻関連講座) 森下 知晃 (金沢大学理工研究域地球社会基盤学系) 諸野 祐樹 (海洋研究開発機構 超先鋭研究開発部門)</p> <p>監事： 海野 進 (金沢大学理工研究域地球社会基盤学系) 小村 健太郎 (防災科学技術研究所地震津波防災研究部門)</p>



## IODP 部会 執行体制

2020 年度	2021 年度
<p><b>部会長:</b> 益田 晴恵 (大阪市立大学)</p> <p><b>部会長補佐:</b> 池原 実 (高知大学) 木下 正高 (東京大学地震研究所)</p> <p><b>部会執行委員:</b> 池原 実 (高知大学) 石橋 純一郎 (九州大学) 北村 真奈美 (産業技術総合研究所) 瀨瀬 佑衣 (名古屋大学) 齋藤 めぐみ (国立科学博物館) 柵山 徹也 (大阪市立大学) 沢田 健 (北海道大学) 中村 恭之 (海洋研究開発機構) 中東 和夫 (東京海洋大学) 針金 由美子 (産業技術総合研究所) 村山 雅史 (高知大学) 山中 寿朗 (東京海洋大学)</p> <p><b>専門部会長:</b> 掘削航海:成瀬 元 (京都大学)</p> <p>科学推進:戸丸 仁 (千葉大学)</p>	<p><b>部会長:</b> 益田 晴恵 (大阪市立大学)</p> <p><b>部会長補佐:</b> 池原 実 (高知大学) 木下 正高 (東京大学地震研究所)</p> <p><b>部会執行委員:</b> 池原 実 (高知大学) 石橋 純一郎 (神戸大学) 北村 真奈美 (産業技術総合研究所) 瀨瀬 佑衣 (名古屋大学) 齋藤 めぐみ (国立科学博物館) 柵山 徹也 (大阪市立大学) 沢田 健 (北海道大学) 中村 恭之 (海洋研究開発機構) 中東 和夫 (東京海洋大学) 針金 由美子 (産業技術総合研究所) 村山 雅史 (高知大学) 山中 寿朗 (東京海洋大学)</p> <p><b>専門部会長:</b> 掘削航海:成瀬 元 (京都大学)</p> <p>科学推進:戸丸 仁 (千葉大学)</p>

## ICDP 部会 執行体制

2020 年度	2021 年度
<p>部会長： 藤原 治 (産業技術総合研究所)</p> <p>部会長補佐： 高澤 栄一 (新潟大学)</p> <p>部会執行委員： 浅沼 宏 (産業技術総合研究所) 大坪 誠 (産業技術総合研究所) 小野 重明 (海洋研究開発機構) 掛川 武 (東北大学) 後藤 和久 (東京大学) 佐野 貴司 (国立科学博物館) 高澤 栄一 (新潟大学) 中川 毅 (立命館大学) 橋本 善孝 (高知大学) 矢部 康男 (東北大学)</p>	<p>部会長： 藤原 治 (産業技術総合研究所)</p> <p>部会長補佐： 佐野 貴司 (国立科学博物館)</p> <p>部会執行委員： 浅沼 宏 (産業技術総合研究所) 大坪 誠 (産業技術総合研究所) 小野 重明 (海洋研究開発機構) 掛川 武 (東北大学) 後藤 和久 (東京大学) 佐野 貴司 (国立科学博物館) 高澤 栄一 (新潟大学) 中川 毅 (立命館大学) 橋本 善孝 (高知大学) 矢部 康男 (東北大学)</p> <p>赤字・新任</p>

## 専門部会体制

2020 度	2021 年度
<p><b>掘削航海専門部会</b></p> <p><b>専門部会長：</b> 成瀬 元 (京都大学)</p> <p><b>専門部会委員：</b> 池原 実 (高知大学) 大坪 誠 (産業技術総合研究所) 鈴木 紀毅 (東北大学) 山田 泰広 (海洋研究開発機構) 井尻 暁 (海洋研究開発機構) 亀尾 浩司 (千葉大学) 草野 有紀 (産業技術総合研究所)</p>	<p><b>掘削航海専門部会</b></p> <p><b>専門部会長：</b> 成瀬 元 (京都大学)</p> <p><b>専門部会委員：</b> 池原 実 (高知大学) 大坪 誠 (産業技術総合研究所) 鈴木 紀毅 (東北大学) 山田 泰広 (海洋研究開発機構) 井尻 暁 (神戸大学) 亀尾 浩司 (千葉大学) 草野 有紀 (産業技術総合研究所)</p>
<p><b>科学推進専門部会</b></p> <p><b>専門部会長：</b> 戸丸 仁 (千葉大学)</p> <p><b>専門部会委員：</b> 東 龍介 (東北大学) 安間 了 (徳島大学) 白石 史人 (広島大学) 鶴 哲郎 (東京海洋大学) 林 広樹 (島根大学) 望月 公廣 (東京大学地震研究所) 山口 飛鳥 (東京大学大気海洋研究所) 守屋 和佳 (早稲田大学) 針金 由美子 (産業技術総合研究所) 井尻 暁 (海洋研究開発機構) 鈴木 庸平 (東京大学)</p>	<p><b>科学推進専門部会</b></p> <p><b>専門部会長：</b> 戸丸 仁 (千葉大学)</p> <p><b>専門部会委員：</b> 東 龍介 (東北大学) 安間 了 (徳島大学) 白石 史人 (広島大学) 鶴 哲郎 (東京海洋大学) 林 広樹 (島根大学) 望月 公廣 (東京大学地震研究所) 山口 飛鳥 (東京大学大気海洋研究所) 守屋 和佳 (早稲田大学) 針金 由美子 (産業技術総合研究所) 井尻 暁 (神戸大学) 鈴木 庸平 (東京大学)</p>

2021 年 5 月 20 日

## 日本地球掘削科学コンソーシアム 2021 年度活動方針（案）

日本地球掘削科学コンソーシアム理事会

日本地球掘削科学コンソーシアムの基本的活動を発展させ、国際深海科学掘削計画（IODP）、国際陸上科学掘削計画（ICDP）に関係した国内外の情勢変化を考慮して、柔軟かつ戦略的な活動を行う。特に、コンソーシアム参加機関との協力を強化する。

理事会の開催
J-DESC 規約に従い、必要に応じて理事会を適宜開催し、重要事項の審議・決定を行う。
総務関連
J-DESC の組織運営に関する検討
J-DESC の組織運営について、効果的・効率的な運営を念頭に組織及びその規約等について俯瞰し、整理や見直しが必要な個所についての検討及び最適化を進める。
J-DESC の活動活性化に関する検討
COVID-19 禍にあって困難を極めている地球掘削科学研究における新しい形の活動、および国際連携について模索するほか、将来の地球掘削科学を担う人材および一般への認知拡大を含めた J-DESC の活動活性化の形について検討を進める。
科学戦略関連
地球掘削科学の振興と日本の研究提案力の強化
IODP や ICDP の将来計画において、世界をリードする日本の方針を打ち出す。また、それを支える健全で活力ある科学コミュニティを維持・拡大する。新たな科学アイデアの発掘・育成や、新規掘削提案の作成・強化する支援を実施する。これらの目的に合致する集会・シンポジウム等を積極的に企画する。国際連携を意識し、日本地球惑星科学連合 2021 年大会で「地球掘削科学」セ

セッションを開催し、2022年大会のセッション提案を行う。
<b>財務関連</b>
年度予算の策定・運用
J-DESC の財政及び活動予定を踏まえ、適切な年度予算を策定し、限られた予算の効果的な運用を行うとともに、収入を維持・拡大するために必要な施策を提案する。
会員提案型活動経費の運用
提案課題の適正な審査・採択・予算配分により、会員提案型活動経費を効果的に運用し、J-DESC の目的・活動に合致する各種会員活動を活性化させる。
<b>外務関連</b>
地球掘削科学に関する国際プロジェクトへの支援及び協力
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ IODP/ICDP 等における対外的な活動として、掘削プロジェクトや国際ワークショップへの研究者の参加、国際委員の推薦・参加、各種情報収集と研究者コミュニティへの展開、国内外コミュニティの交流・連携促進等を行う。</li> <li>・ 新たに策定した IODP/ICDP の将来計画の実現に向けた対外的な活動を積極的に行う。</li> <li>・ 国内外の情勢を分析し、積極的・効果的にコミュニティへ情報展開を行う。</li> <li>・ 掘削プラットフォームの利用が減少する中で、掘削科学研究やコミュニティの維持・発展のため、国際的な連携の強化を図る。</li> <li>・ 国際的合意に基づき、国内の掘削予算や運航の確保のために関係機関に積極的に働きかける。</li> </ul>
<b>広報・教育関連</b>
コミュニティの持続的な発展・拡大を目指す戦略的な広報・教育活動
<p>各種普及・広報・教育活動を継続展開するとともに、新規活動を創出・企画する。</p> <p>会員機関の相互連携による研究教育資源の有効活用を進める。</p> <p>特に以下の事項を強化する。</p>

- ・ スクールやワークショップ等による若手育成・研究コミュニティの底辺拡大
- ・ 各種メディアを活用した国内外への普及・広報活動
- ・ COVID-19 を契機とした教育のデジタル化にマッチした情報発信、および実際に体験する実習等の価値の発信

2021 年 5 月 20 日

日本地球掘削科学コンソーシアム IODP 部会  
2021 年度活動方針（案）

IODP 部会執行委員会

J-DESC 理事会・ICDP 部会と連携し、IODP 部会の基本的活動を維持発展しつつ、国際深海科学掘削計画（IODP）に関する国内外の情勢変化に対応しつつ、2020 年度に承認された Science Framework に基づいて、新規活動を創出・企画する。

執行委員会の開催・総務関連
IODP 部会規則に従い、必要に応じて執行委員会を適宜開催し、重要事項の検討を行い、理事会に報告する。
科学戦略関連
IODP や ICDP の将来計画に基づいて、(1) 健全で活力ある科学コミュニティの維持・拡大と (2) 新たな科学アイデアの発掘・育成や、新規掘削提案の作成・強化支援のために、以下を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 掘削航海専門部会を活用し、IODP 乗船応募者を拡大するための方策（例えば、ウェビナーの開催等）を実施する。</li> <li>・ 科学推進専門部会を活用し、新規掘削提案の支援を実施し、日本発の掘削提案の実現を強力に進める。</li> <li>・ J-DESC 会員をはじめとする国内研究者コミュニティに対する SCORE の周知活動を強化し、SCORE への掘削提案を奨励する。</li> <li>・ ICDP 部会と協力し、国内学会等へのブース出展を行う。ブース出展に設けた相談窓口を通じて、IODP や SCORE への掘削提案・参加方法やコミュニティからの質問・相談等を受け、取りまとめる。</li> </ul> また、これらの目的に合致する集会・シンポジウム等を積極的に企画・提案・実施する。 <p>さらに国際連携を意識し、日本地球惑星科学連合 2021 年大会で「地球掘削科学」セッションを開催し、2022 年大会のセッション提案を行う。</p>

### 外務関連

IODP における対外的な活動として、以下を行う。

- ・ 専門部会を活用し、IODP 航海への乗船研究者の応募受付・評価・推薦を行う。
- ・ IODP 国際パネル・委員会等への日本からの委員の公募・選定・推薦および会議への派遣を行う。
- ・ IODP Forum 会議および各掘削船の運用委員会（Facility Board）会議へ出席し、IODP の国際情勢について会員とのタイムリーな情報共有を行う。
- ・ データ・サンプルリポジトリの国内外の動向に関する情報を共有する。
- ・ タウンホールミーティング等、国内外コミュニティの交流・連携促進イベントの企画検討を行う。

### 広報・教育関連

各種普及・広報・教育活動を継続展開するとともに、新規活動を創出・企画する。会員機関の相互連携による研究教育資源の有効活用を進める。2020 年度は COVID19 により活動が停滞した対面集会型・実習型のプログラムもあるが、新しい生活様式に対応したかたちでの活動を企画し実施する。

- ・ 会員機関が提供する研究教育プログラムを大学が単位として認定する仕組みを展開・拡充
- ・ ワークショップ等による若手育成・研究コミュニティの底辺拡大
- ・ J-DESC コアスクールの実施の企画検討
- ・ COVID19 を契機とした教育のデジタル化にマッチした情報発信のコンテンツ検討



2021 年 5 月 20 日

## 日本地球掘削科学コンソーシアム ICDP 部会

## 2021 年度活動方針（案）

ICDP 部会執行委員会

J-DESC 理事会・IODP 部会と連携し、ICDP 部会の基本的活動を継承しつつ、ICDP Science Plan など国内外の情勢変化に柔軟に対応した活動を創出・企画する。特に、コンソーシアム参加機関との協力を強化する。

## 執行委員会の開催・総務関連

ICDP 部会規約に従い、必要に応じて執行委員会を適宜開催し、重要事項を検討・実施し、理事会に報告する。

## 科学戦略関連

## 地球掘削科学の振興と日本の研究提案力の強化

- ・日本発の ICDP プロジェクト実現に向け、新たな科学アイデアの発掘・育成や、新規掘削提案の作成・強化のための支援を実施する。これらの目的に合致する集会・シンポジウム等を積極的に企画する。
- ・日本地球惑星科学連合 2021 年大会で「地球掘削科学」セッションを開催し、2022 年大会のセッション提案を行う。
- ・新 ICDP サイエンスプランに対応して、日本の特性をいかした方針・提言を発信する。
- ・ICDP プロジェクト、陸上科学掘削プロジェクトへの日本からの研究者参加の支援を行う。
- ・日本からの研究者の ICDP 関連成果の取りまとめと広報の実施

## 財務関連

- ・ICDP 部会の活動予定を踏まえ、適切な年度予算を策定し、限られた予算の効果的な運用を行う。
- ・会員提案型活動経費への募集・選定・採択を適正に行い、各種会員活動を活性化させる。

外務関連
ICDP に関わる対外的な活動および支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICDP の Assembly of Governors (AOG), Executive Committee (EC), Science Evaluation Group (SAG)の各会議へ出席し、ICDP の国際情勢について情報共有を行うとともに、情報を分析して J-DESC の活動に反映する。</li> <li>・ SAG 等の ICDP 国際委員候補者の戦略的な検討を行う。</li> <li>・ 2022 年 3 月に期限を迎える ICDP MOU の更新に向け JAMSTEC および J-DESC と連携し準備を進める。</li> </ul>
国内外コミュニティの交流・連携促進
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ COVID-19 禍においても可能な、J-DESC タウンホールミーティング等のコミュニティの交流促進イベントの検討</li> </ul>
広報・教育関連
新規活動の創出・企画の検討
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ニューノーマルの社会を見据えた教育のデジタル化にマッチした情報発信、および実際に体験する実習等の価値の発信</li> <li>・ 学会等の機会をとらえた広報活動の実施</li> <li>・ 会員機関の相互連携による研究教育資源の有効活用（単位認定制度）の推進</li> <li>・ スクールやワークショップ等による若手育成・研究コミュニティの底辺拡大</li> <li>・ 各種メディアを活用した国内外への普及・広報活動</li> </ul>
出版物等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ J-DESC Newsletter vol. 14（日本語）電子版発行（2021 年 5 月予定）</li> <li>・ J-DESC Newsletter vol. 15（日本語）電子版の発行に向けた原稿準備</li> <li>・ その他、J-DESC の目的・活動に合致するものを適宜実施</li> </ul>

## 日本地球掘削科学コンソーシアム2021年度予算(案)

(単位:円)

科 目	2020年度		2021年度	備 考
	予算額	決算額	予算案	
<b>【収入の部】</b>				
年会費	3,961,000	4,158,000	3,855,000	昨年比106,000円減
正会員	3,040,000	3,240,000	3,040,000	
正会員A	2,200,000	2,400,000	2,200,000	100,000円×22団体
正会員B	840,000	840,000	840,000	30,000円×28団体
個人会員	21,000	18,000	15,000	3,000円×5名
賛助会員	900,000	900,000	800,000	100,000円×6団体 200,000円×1団体
雑収入	0	261	0	
<b>当期収入合計</b>	<b>3,961,000</b>	<b>4,158,261</b>	<b>3,855,000</b>	
前年度繰越金	9,887,940	9,887,940	12,330,237	
<b>収入合計</b>	<b>13,848,940</b>	<b>14,046,201</b>	<b>16,185,237</b>	
<b>【支出の部】</b>				
<b>1 共通経費</b>	<b>4,083,132</b>	<b>1,715,964</b>	<b>3,026,172</b>	
会員提案型活動経費	300,000	0	300,000	
広報活動費	378,132	163,382	321,172	
コアスクール開催費	1,355,000	0	1,355,000	微化石、基礎、同位体、ロギング、古地磁気、岩石
会議開催費	60,000	0	60,000	
通信費	30,000	10,236	30,000	
雑費	70,000	41,013	70,000	
謝金	60,000	0	60,000	
事務局業務委託費	525,000	488,347	525,000	
事務局会計業務費	5,000	0	5,000	
【旧】掘削科学計画・提案支援費 【新】掘削提案・成果促進支援費	300,000	53,856	150,000	レガシーコアサンプリング学生旅費支援制度の開始に伴う費目名変更
Science framework対応・特別出版費	1,000,000	959,130	0	2020年度のみの特設費目
SCORE関連支援費	-	-	150,000	SCORE教育乗船枠制度の開始等に伴う費目新設
<b>2 理事会活動経費</b>	<b>510,000</b>	<b>0</b>	<b>510,000</b>	
理事会活動経費	500,000	0	500,000	
雑費	10,000	0	10,000	
<b>3 IODP部会経費</b>	<b>378,200</b>	<b>0</b>	<b>378,200</b>	
執行部会活動経費	358,200	0	358,200	
雑費	20,000	0	20,000	
<b>4 ICDP経費</b>	<b>277,000</b>	<b>0</b>	<b>277,000</b>	
執行部会活動経費	270,000	0	270,000	
雑費	7,000	0	7,000	
<b>当期支出合計</b>	<b>5,248,332</b>	<b>1,715,964</b>	<b>4,191,372</b>	
当期収支差額	-1,287,332	2,442,297	-336,372	
前期繰越収支差額	9,887,940	9,887,940	12,330,237	
次年度繰越金(見込)	8,600,608	12,330,237	11,993,865	予備費
<b>支出合計</b>	<b>13,848,940</b>	<b>14,046,201</b>	<b>16,185,237</b>	

## 日本地球掘削科学コンソーシアム会員リスト（令和3年5月現在）

正会員:50 賛助会員:7 個人会員:5

No.	会員機関名（正会員）
1	秋田大学 国際資源学部
2	茨城大学 理学部
3	宇都宮大学 地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科岩盤工学研究室
4	愛媛大学 理学部 地球科学科
5	大阪市立大学 大学院理学研究科 生物地球系専攻
6	岡山大学 理学部 地球科学科
7	岡山理科大学
8	海洋研究開発機構 海域地震火山部門
9	海洋研究開発機構 海洋機能利用部門
10	海洋研究開発機構 超先鋭研究開発部門
11	鹿児島大学 大学院理工学研究科 理学専攻 地球科学プログラム
12	金沢大学 理工研究域地球社会基盤学系
13	北見工業大学 環境・エネルギー研究推進センター
14	九州大学 大学院理学研究院 地球惑星科学部門
15	九州大学 大学院工学研究院 地球資源システム工学部門
16	九州大学 大学院比較社会文化研究院 地球変動講座
17	京都大学 大学院工学研究科 都市社会工学専攻 地球資源学講座
18	京都大学 大学院理学研究科 地球惑星科学専攻
19	京都大学防災研究所 地震防災研究部門
20	熊本大学 理学部 地球科学科
21	高知大学 海洋コア総合研究センター
22	神戸大学
23	国立科学博物館
24	国立極地研究所
25	産業技術総合研究所 地質調査総合センター
26	島根大学 総合理工学部 地球科学科
27	信州大学 理学部
28	千葉大学 大学院理学研究院 地球科学研究部門
29	筑波大学 生命環境系地球進化科学専攻
30	東海大学 海洋学部
31	東京海洋大学 海洋資源環境学部
32	東京大学地震研究所
33	東京大学 大学院理学系研究科
34	東京大学大気海洋研究所
35	同志社大学 理工学部 環境システム学科
36	東北大学 大学院環境科学研究科
37	東北大学 大学院理学研究科/学術資源研究公開センター
38	徳島大学 環境防災研究センター
39	富山大学 大学院理工学研究部(理学) 生物圏環境科学科 環境化学計測第2講座
40	富山大学都市デザイン学部地球システム科学科
41	名古屋大学 地球環境科学専攻関連講座/地震火山研究センター/宇宙地球環境研究所/名古屋大学博物館
42	新潟大学 理学部/大学院自然科学研究科
43	日本大学文理学部地球科学科
44	兵庫県立大学 大学院理学研究科 地球科学講座
45	広島大学 大学院 先進理工系科学研究科
46	防災科学技術研究所 地震津波防災研究部門
47	北海道大学大学院理学研究院・大学院地球環境科学研究科・低温科学研究所
48	山形大学 理学部 地球科学コース
49	山口大学 理学部 地球システム圏科学科
50	琉球大学 理学部 物質地球科学科地学系
No.	会員機関名（賛助会員）
1	エスケイエンジニアリング株式会社
2	株式会社クリステンセン・マイカイ
3	JX金属探開株式会社
4	シュルンベルジェ株式会社
5	日鉄鉱コンサルタント株式会社
6	ハリバートン・オーバーシイズ・リミテッド
7	株式会社マリン・ワーク・ジャパン